

駒ヶ林
あかるく住みよいまちづくり構想



平成19年3月

駒ヶ林まちづくり協議会



目次

1. 駒ヶ林のまちの概要	2
2. 駒ヶ林のまちの特徴	3
1) 歴史のあるまち	
2) 漁港と浜のあるまち	
3) 人情あふれるまち	
4) 路地のまち	
3. 駒ヶ林のまちの課題	7
4. まちづくり構想の策定過程	9
5. 駒ヶ林あかるく住みよいまちづくり構想	12
6. 駒ヶ林地区概要	15
7. まちづくり協議会活動記録	16
8. まちづくり構想の実現へ向けて	17



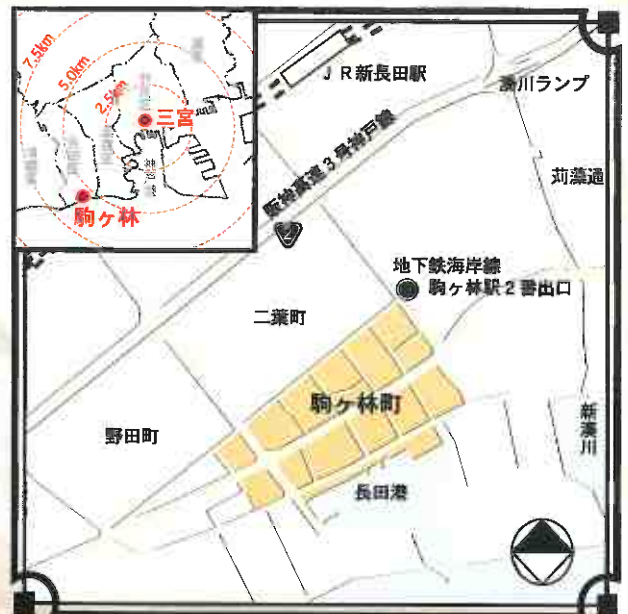
駒ヶ林のまちの概要

駒ヶ林は長田区南部の海沿いに位置し、漁港を中心とした古くからの歴史と独特の風土を持つ、広さ約 19ha、約 1,460 世帯が暮らすまちです。明治 20 (1887) 年林田村として合併、大正時代の耕地整理・町名改正により大正 9 (1920) 年に、現在の町名「駒ヶ林町」となりました。

近代的港湾都市として神戸が発展するとともに、ここ駒ヶ林にも幾つもの工場が建ち、港が築かれフェリー乗り場ができるなど、次第に変貌を遂げ、合わせて住宅地も拡大し、人口も急増しました。その後、高度成長期をピークに人口は減少し、少子高齢化が進むなどインナーシティ（既成市街地）の課題を抱えるようになってきています。現在は高松線・板宿線で分断されていますが、かつては駒ヶ林一帯が迷路のような細い路地につながっていました。また戦災・震災そして水害などの被害が比較的少なかったことから、漁村集落独特の古いまち割りがそのまま残っています。そこに住宅を中心に魚加工場や各種工場などが入り交じり、住工の混在したエリアとなっています。

人口は減少傾向にあるものの、人の入れ替わりは少なく、古くから続く良好なコミュニティ（地域の人をつながり）を維持しながら、現在に至っています。

- 最寄り駅
地下鉄海岸線「駒ヶ林駅」
- 駒ヶ林へのアクセス
地下鉄海岸線「三宮・花時計前駅」から電車で 15 分
地下鉄海岸線「新長田駅」から電車で 1 分
J R 新長田駅から徒歩約 10 分





駒ヶ林のまちの特徴①

歴史のあるまち

駒ヶ林は、奈良から平安時代にかけて遣唐使の出入りが大輪田泊にあったころ、その船繋所であったと言われています。駒ヶ林の地名の由来には、神功皇后が朝鮮に出兵した時に、高麗（こま）からやってきた多くの帆船の帆柱が林のように見えた、あるいは「高麗返し」が転訛したなど多くの説があります。治承3（1179）年には、平清盛が宮島へ参詣する際に「小馬林」に上陸したとの記述が残され、また源平の戦いでも平家の軍船が沖に集まったといわれるなど、大変古い歴史があるまちです。そのため駒ヶ林ならではの風習も多く、昔は網入れの優先権を争ったという「左義長（さぎっちよ）」の祭りは千年の歴史を持つといわれ、長田港が埋め立てられる昭和34（1959）年まで続きました。

しかし時代の流れと人口の減少、そして若者の流出によって、左義長をはじめ神輿、屋台などの伝統的な地域行事は徐々になくなりつつあります。一丁目は東之町（ひがっしょ）、二丁目は出在家（でざいけ）、三丁目は井戸之町（いどんちよ）、四丁目は仲之町（なかんじよ）、五丁目は堂之町（どうのちょう）、六丁目は西之町（にしんじよ）と呼ばれ、平忠度の腕を祀ったとされる「腕塚堂」など、長い歴史を持つ数多くの史跡・寺・神社がまちのあちこちに今も残っています。



▲腕塚堂



▲忠度公の碑



▲六地藏尊



漁港と浜のあるまち

駒ヶ林は古くから海上交通の良港とされ、摂播五泊の一つとして数えられるほど重要な港でした。また漁港としても栄え、大昔から魚市があったと伝えられています。季節ごとに穫れる魚は異なり、それを目指してたくさんの漁師・加工屋・商人が集まり、「ハヤシ千軒」といわれるほど大きな賑わいがありました。明治8（1875）年には駒ヶ林魚市場が開設され、一時は神戸市内でも一、二を争う活況を呈していました。そのため海に関わる行事も多く、特に蛭子神社のお祭りでは漁師がお祓いをしてもらうなどの風習がありました。一方、北には田んぼもあり、完全な漁師町というよりは「半農半漁のまち」でした。明治末期から大正にかけては、工業の発展により神戸ガス製造所のガスタンクをはじめ、臨海部に工場が林立するようになりました。神戸大空襲によって市内の臨港地帯は壊滅的状況に陥りますが、駒ヶ林は被害を受けなかったため、浜の風景も街並みもあまり戦前と変わっていません。しかし昭和30年代に入ると「長田港」として埋め立て造成工事が始まり、また護岸工事などによって浜辺は無くなり、それまでの漁村としての面影は無くなりました。以来、重要な漁港であると同時に、フェリーボートの発着場としての機能を主力とし、長田港は金属製品や重油等の積み下ろし港としても発展しました。しかし昭和49（1974）年に発着場が移転、その後の地域情勢の変化により、現在では以前のような活気が失われつつあります。



▲魚市場（大正時代）



▲現在の賑り

人情あふれるまち

駒ヶ林は人情あふれるまちです。みそ・しょうゆの貸し借りは当たり前で、貰い物はじきにおすそ分けにまわり、旅行や遠出のときはお土産を買ってきてくれます。また近所の人がすぐにお見舞いに駆けつけてくれるため、黙って入院もできないような関係が昔から続いています。かつては扉に鍵を掛けたこともなく、「こんにちは」と声をかけたらもう家に上がりこんでいたり、腕白なゴンタも含めて皆で声をかけて子どもを見守ったりしていました。特に昔は「やったりもうたり」と駒ヶ林の人同士で結婚することが多く、まちの中に親戚が多いことで、自然と悪いことができない雰囲気になっていたところもあったようです。こうしたお付き合いはわずらわしい面もあるからか、人の入れ替わりによって弱まっているところもありますが、この「つながり」が震災などの災害時に大変役に立ち、その大切さを改めて実感することができました。



▲ウォークラリーでのおもてなし



▲地蔵盆





駒ヶ林の特徴④

路地のまち

駒ヶ林のまちは大変入り組んだ路地で形作られています。漁村集落の特徴である縦長の路地が続く貴重なまちなみが今も残っており、長く住んでいる地域の人でも、場所によっては逃ってよく分からなくなることもあるようです。隣のおかずが匂いでわかるほど狭い路地が多いのですが、昔は街道と呼ばれた荷馬車や神輿が十分通れる道もありました。

一方、車の入れない路地は子どもたちの格好の遊び場でもあり、パイ（ベーゴマ）やラムネ玉を使った遊び、メンコ、スライボッカン、コマを手のひらで回しながらする追いかけっこなど、路地ならではの遊びがたくさんありました。路地では大人も、近所の人とおしゃべりをしたり、ベンチを置いて涼んだり、植木鉢を置いて歩いて行く人を楽しませたりと、さまざまな使い方がされていました。



▲路地の風景



▲路地では魚も捌いた



▲路地は子供の遊び場

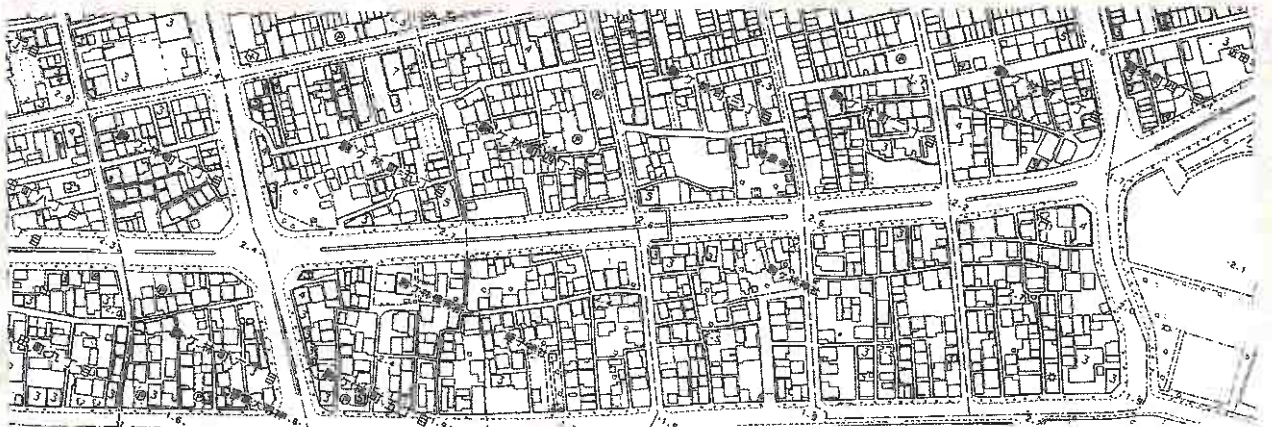




駒ヶ林のまちの課題

1. 道路が狭く、建物が密集している

古いまちなみが残っている良さがある一方、ほとんどの街区内の路地は人がすれ違うのがやっとの幅となっており（平均2m弱）、緊急車両などの通行に問題があります。また建物が密集しており、火事の延焼や避難路の確保など防災上・安全上の問題も指摘されています。さらに、多くの敷地では建物を建替える際に道路中心から現在の壁面位置よりさらに後退しなければならないことから、有効敷地面積が極端に狭くなるなど、必要な建替え更新が進みにくい状況となっています。



▲駒ヶ林の路地が入り組んだ道路形態と密集した建物

2. 空き地が多い

阪神・淡路大震災の被害の影響もあり、街区には多くの空き地が長く放置されており、人口減少やまちの活力低下の一因となっています。また、維持管理がきちんとされていない空き地もあり、雑草が生い茂り羽虫が大発生したり、不法投棄のゴミが溜まるなどの問題を引き起こし、近隣住民にとって、環境や景観上の課題となっています。



▲震災後の空き地の様子

3. 高齢化が進み、人口が減っている

昭和30年代には9,000人を超えていた駒ヶ林の人口は、平成17年度の国勢調査によると人口3,090人・高齢化率は31.0%となっており、ますます高齢化と人口減少が進んでいます。伝統的な行事の運営が困難となり、休止したものも多く、また日常的な自治活動においても支障が出て来ることが懸念されています。同時に、若い世代が地域への関心を次第に失い、まちの歴史や伝統、地域とのつながりが希薄化してきていることも、課題と考えられています。

4. マナーの悪化

地域のコミュニティが弱体化するとともに、生活マナーの悪化が深刻となっています。特に平成16年のごみ・資源の六分別収集がスタートしてからは、ルールを守らないごみ分別排出が多くなり、また高松線沿いのステーションでは不法投棄が頻発しています。その他、迷惑駐輪・駐車や生活騒音など、マナーの悪化による住環境悪化が、特に日常的で大きな課題とされています。



▲不法投棄の様子



▲迷惑駐車の様子



まちづくり構想の策定過程

平成3年に設立された駒ヶ林まちづくり協議会では、これまで「駒ヶ林ふれあい祭」の開催など、地域のさまざまな課題を解決するために具体的な活動を実施してきました。そして平成17年度より、あらためて駒ヶ林の総合的なまちづくりの方針を定め、それに基づいて活動していく仕組みを目指し、本格的に「まちづくり構想」策定に取り組み始めました。

協議会ではまず構想策定に向けて、住民の皆さんが現在のまちの良さや悪さ、将来についてどのような考えを持っているかを知るため、平成16年10月に全世帯アンケートを実施しました。アンケートでは、古く歴史あるまちとその街並み・家並みを大事にしていきたいという意見が多く、交通機関や買い物などの利便性、近所づきあいなどのコミュニティが高い評価を得ました。一方で、狭く入り組んだ路地などまちの安全性への不安や、住宅の広さへの不満、公園や緑・集会所などの公共空間への不満も比較的多く見られました。また、ゴミ出しや犬猫の糞などの生活マナーが守られていないことや、かつて砂浜であった長田港付近の今後のあり方などについても、多くの意見が出されていました。

アンケートにあわせて、協議会では現況調査のためにまち歩きを実施し、課題場所や問題点などを共有しました。これらの結果を踏まえて構想のキーワードを整理、課題や将来どうなったらいいかについてワークショップ等で話し合いを重ね、まちづくり構想の基礎となる目標をまとめていきました。



▲構想づくりのためのまち歩き



▲まち歩きの結果



▲構想をまとめるワークショップ

まちづくり構想のキーワード

	キーワード	会合やアンケートで指摘された主な課題
ソフト系	防災・安全	見通しの悪い道が多い 子どもが安心して安全に避ける公園が少ない
	子ども	縦のつながり(マンション等)での人付き合いが難しい
	お年寄り	空地・空家が多く、防犯上・衛生上等で問題
	コミュニティ	不審な人が地域に入ってきて不安 義理人情が薄くなっている
	人情	ゴミ出しやベットの糞などのマナーが守られていない
	歴史	人が減り、まちの活気がない 住民が高齢化していて、若者が戻ってこない
ハード系	緑	緑のある広場が各町に必要 空地管理は地主意向もあり難しい
	空地	土地の境界が不明確
	広場	道を広げると宅地が狭くなり、建て替えが困難になる
	土地境界	道が狭くて車が入れない 海辺が味気なく、昔の面影がなくなってしまう
	路地・道	古いまちの良さが残せないか

以上のような取組みを経て、平成18年11月に駒ヶ林のまちづくりの基本目標・基本方針案をまとめ、案に対する全世帯アンケートを再度実施しました。アンケート結果では、いずれについても9割前後が原案に対して肯定的意見でしたが、住民の皆さんのご意見をより反映させるために若干の変更を行った上で、構想としてまとめました。同時に構想の名称もアンケートで募集を行い、会合での検討を経て、「駒ヶ林あかるく住みよいまちづくり構想」に決定しました。



▲構想の文案を全員で検討する

駒ヶ林 あかるく住みよいまちづくり構想

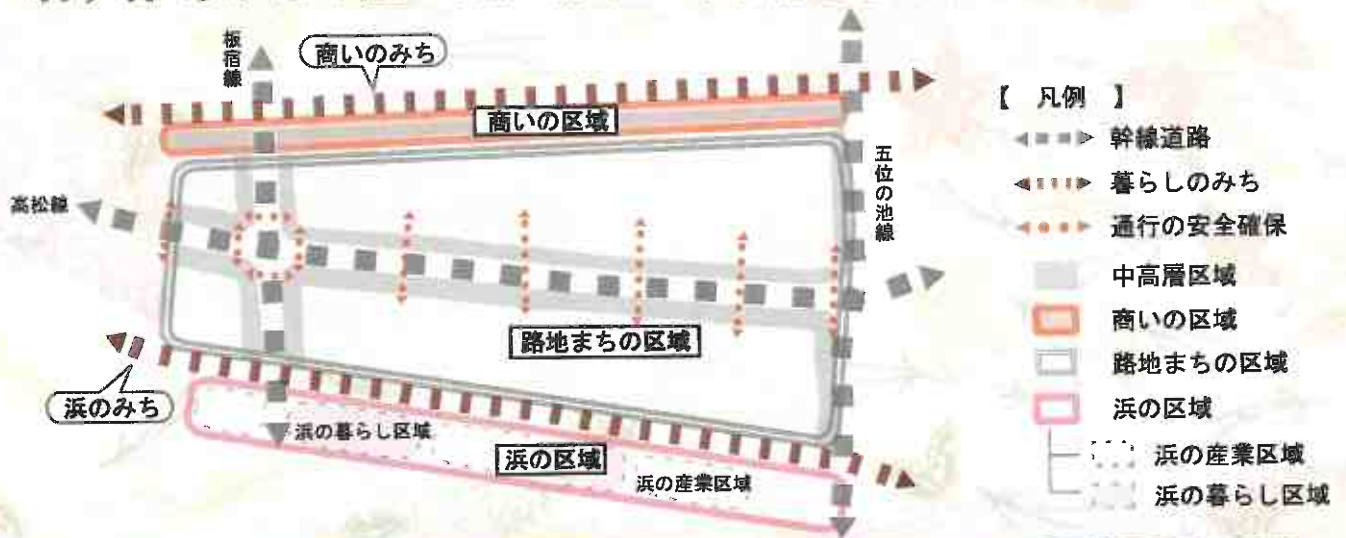
駒ヶ林まちづくり協議会では、住民にとって望ましいまちの実現を図るため、平成17年度からまちの将来像を描く「まちづくり構想」の策定に取り組んできました。これまで2回のアンケートを経て、大多数のみなさまの賛同を確認し、ここに「駒ヶ林あかるく住みよいまちづくり構想」を策定いたしました。今後、この構想の実現に向けた活動を進めてまいりますので、みなさまのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

基本目標 海辺のまち駒ヶ林の歴史を引き継ぎ、あらゆる世代が住みやすく、助け合える、安全・安心で美しいまちづくり

駒ヶ林まちづくり構想の基本方針

- 向こう三軒両隣の付き合いを大切にし、助け合いが自然にできる活気のあるまち
- 子どもからお年寄りまで、誰もが安全・安心で、マナーを守れる美しいまち
- 駒ヶ林の豊かな歴史や伝統を、次の世代に引継いでいけるまち
- 駒ヶ林らしい風情や情緒のある建物や路地のあるまち
- 親しんできた浜辺の思い出を伝え、海が感じられるまち

「駒ヶ林 あかるく住みよいまちづくり構想」まちの組立て方針図



「駒ヶ林 あかるく住みよいまちづくり構想」では、駒ヶ林の地区内をいくつかの区域に分け、それぞれにふさわしいまちの実現を図っていくように考えています。上記のように大きく3つの特徴（商い／路地まち／浜）をもつ区域にわけ、それぞれに適した整備・誘導を図れるようにすることを、今後検討していきます。

「まちづくり構想」とは・・・？

「まちづくり構想」とは、10年20年後、あるいはもっと先の望ましい「まちの将来像」を住民自身が考え、まとめるものです。これをきちんとつくって共有しておかないと、まちは開発する人の思惑だけに従い無秩序に変わっていきます。神戸市では「まちづくり条例」が制定されており、「まちづくり構想」をもとに「まちづくり協定」を市長と締結すると構想の実現が尊重されるようになっています。

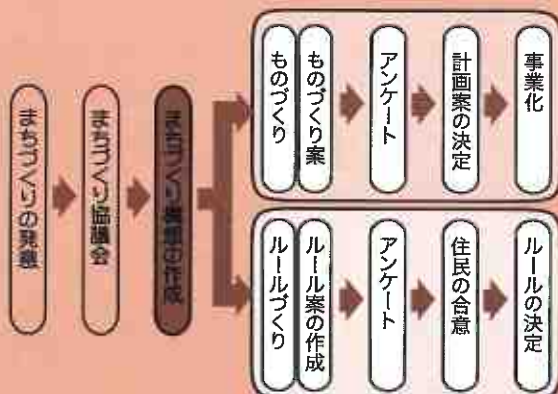
「まちづくり構想」が「ない時」「ある時」どう違う??

「まちづくり構想」や「協定」が・・・	ない時	ある時
・住民が望まないような高い建物は？	建ちます！	一定のルールのもとに制限できます
・周囲を無視した派手な色の建物は？	建ちます！	一定のルールのもとに制限できます
・パチンコ店やカラオケボックスなどは？	建ちます！	一定のルールのもとに制限できます
・建替え時の建物の2m後退は？	必ず後退！	一定のルールのもとに緩和できます
・駒ヶ林らしい整ったまちなみは？	できにくい ほとんど無理	できやすい
・将来の助成を用いたものづくりは？	できにくい ほとんど無理	できやすい

「まちづくり構想」や「まちづくり協定」が、「ある時」と「ない時」では、上に記したような違いがあります。構想や協定があると、建替えのルールなど一定の制約が伴いますが、それによってより良い住環境や景観、公的な施設整備などが実現できたりします。その内容は住民のみなさんで考え、駒ヶ林のまちにとってふさわしいものにしていく必要があります。

「まちづくり構想」と住民参加のまちづくりの進め方

神戸市における住民参加のまちづくりの進め方



まちづくり構想をもとに「ものづくり」と「ルール（まちづくり協定）づくり」を行い、住民と神戸市が一緒になって地域にとって望ましいまちの姿を実現していきます。

まちづくりの目標・方針

…こんなまちに駒ヶ林がなったらいいのに…
そんな思いを言葉でまとめました。

○向こう三軒両隣の付き合いを大切にし、助け合いが自然にできる活気のあるまち

- ・昔から続く、向こう三軒両隣の付き合いを大切にし、育てる
- ・駒ヶ林の暮らしを理解してくれる人が育ち、集まってくるようなまちにする
- ・若い人が集まり、永く住み続けられるような環境づくりをする
- ・マンションや集合住宅も、地域と交流できるまちにする
- ・ボランティアで地域の人材が活用され、自分自身のためにもなる福祉の仕組みをつくる

○子どもからお年寄りまで、誰もが安全・安心で、マナーを守れる美しいまち

- ・誰もが安心して通行できるバリアフリーのまちづくりを推進する
- ・お互いの助け合いや情報の共有で、災害や事故、犯罪を減らしていく
- ・住民自らが絶えずまちをきれいにし、美しいまちにしていく
- ・駒ヶ林に住んでいる人はもちろん、訪れる人も、マナーを守れるようにする
- ・子どももお年寄りも集え、地域の催しもでき、避難所にもなるそこそこの大きさの広場を各町ごとに整備する
- ・空地や老朽化した危険な建物を適切に管理できるようにする
- ・人が行き来できる範囲で植木や自転車等を置く路地のルールづくりをする

○駒ヶ林の豊かな歴史や伝統を、次の世代に引継いでいけるまち

- ・路地やまちなみで生きる歴史的資産を次の世代に引き継いでいく
- ・住民が興味を持ち、駒ヶ林の歴史、文化を記録して、次の世代に伝えていく

○駒ヶ林らしい風情や情緒のある建物や路地のあるまち

- ・住民にとって良好な環境で、まちの活性化が図れるようなような土地利用を進める
- ・駒ヶ林らしい風情や情緒が感じられる建物を守り、育て、つくる
- ・明るく安全で快適な、昔の雰囲気や暮らしやすさが感じられる路地を守り、育て、つくる
- ・それぞれの家庭で花や緑を、通行の妨げにならないように育てる

○親しんできた浜辺の思い出を伝え、海が感じられるまち

- ・暮らしの一部であった浜辺の思い出を伝えることができ、みんなが海に親しめる場所をつくっていく
- ・浜辺の清掃美化に努め、マナーを啓発し、気持ちよく海に親しめる環境をつくっていく

地域住民で進める具体的活動例

… できる範囲で1つずつでも
これからゆっくり進めましょう！

- ・ふれあい祭りなどの継続実施／幅広い年齢層参加のための企画の追加
- ・地区計画等での用途制限・緩和の検討／誘致計画の検討
- ・地域内ボランティア活動の情報整理・発信／ボランティア募集方法の拡大／ボランティア研修の仕組みづくり
- ・マンションへの自治会参加への促し／交流イベントの実施（ふれあい祭りでの追加企画等）
- ・空家・家主情報の収集／コーディネーターとの連携による計画づくり

- ・バリアフリーマップづくり／段階的整備計画づくり
- ・バリアフリー助成の活用検討・情報発信
- ・老朽家屋の収集とまとめ／家主との意見交換の機会づくり
- ・安全避難路マップづくり／避難訓練
- ・緑化協定の検討／緑化助成活用の検討
- ・迷惑駐輪禁止区域指定の検討／キャンペーン実施／啓発看板の設置検討
- ・路地のルールづくりの検討
- ・空地情報の確認／地主との意見交換の機会づくり／防犯情報収集・共有
- ・ポイ捨て禁止区域指定の検討／マナー啓発キャンペーンの実施
- ・ポイ捨てゴミ課題地区の確認／学校や企業、事業所等と連携したクリーン作戦の実施

- ・ふれあい祭り、イカナゴウォークラリー等でのイベントの追加企画
- ・旧二葉小学校での設置要望
- ・資料収集の呼びかけ（写真その他）
- ・危機遺産の情報収集・共有／保全計画づくり

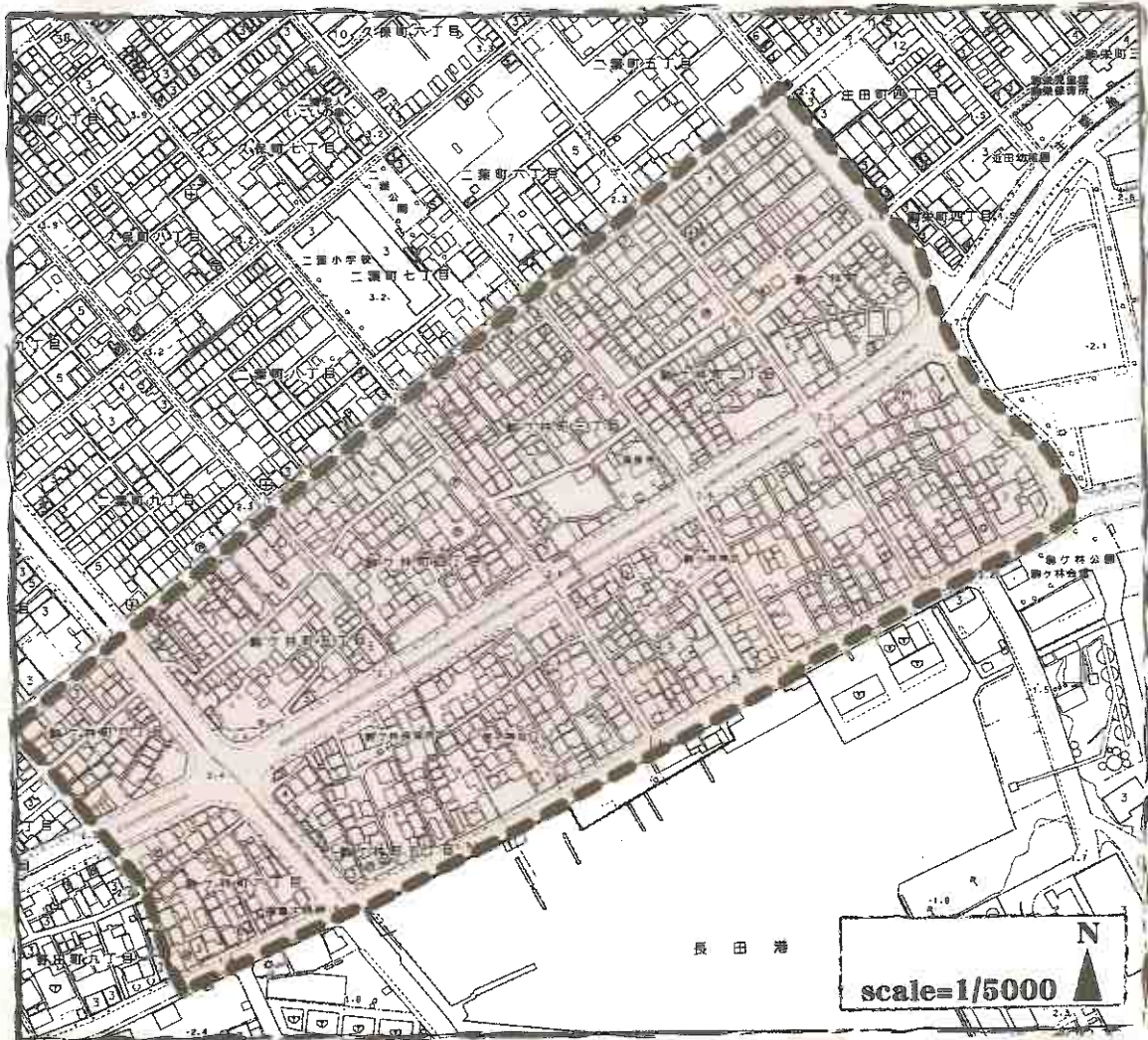
- ・まちづくり協定・地区計画等の検討／路地を守り残す計画（水平距離指定等）の検討
- ・景観ルールづくり
- ・細街路整備の全体的計画づくり
- ・防犯灯情報の収集
- ・登録文化財候補のリストアップ／ヘリテージマネージャーとの連携による保全活用の検討

- ・長田港の現状の再確認（港歩き）／浜辺整備・活用の計画検討
- ・浜辺を重点的に行うクリーンアップ作戦の実施
- ・浜辺で実施できるイベント等の検討



駒ヶ林地区概要

- < 対象エリア > 神戸市長田区駒ヶ林町1～6丁目
- < 面積 > 約19 ha
- < 世帯数/人口 > 約1,460世帯/約3,100人 (平成17年国勢調査)
- < 関係団体 > 駒ヶ林地区自治連合協議会、駒ヶ林婦人会、駒ヶ林寿会
- < 区域 >





駒ヶ林まちづくり協議会の活動経過

●平成3年 1月：まちづくり協議会設立

●平成6年～ 5月：ふれあい祭開催（平成7年を除き、毎年開催）

●平成11年 12月：東町やすらぎ広場完成

●平成13年 3月：やすらぎ小路完成（細街路整備）

●平成15年 3月：いかなごウォークラリー開催（以降毎年開催）
駒っぶ（第1弾）作成
12月：駒ヶ林ミニ写真展開催
駒っぶ（第2弾）作成

●平成16年 3月：デジタル写真館「駒っこ物語」完成
7月：まち協役員会（まちの将来像を考えるワークショップ）

●平成17年 8月：まち協役員会（まちづくり住民アンケートの検討）
9月：まち協役員会（まち歩きによる現況調査）
10月：まち協役員会（まち歩きによる現況調査）
まちづくり住民アンケートの実施
11月：まち協役員会（まちづくり構想策定の検討）
12月：まち協役員会（アンケート結果、まちづくり構想のキーワード整理）
1月：まち協役員会（まちづくり構想テーマと方向性の検討）

●平成18年 4月：まち協役員会（まちづくり構想テーマと方向性のまとめ）
6月：まち協役員会（まちづくり構想の素案の検討）
7月：まち協役員会（まちづくり構想素案の確認、地図による検討）
8月：まち協役員会（まちづくり構想と地域活動との関係の検討、
住民アンケートの検討）
9月：まち協役員会（まちづくり構想住民アンケートの確認、
住民説明会の検討）
10月：まちづくり構想住民説明会開催
まちづくり構想住民アンケート実施
まちづくりニュース発行
まち協役員会（まちづくり構想に基づく活動の検討）
11月：まち協役員会（まちづくり住民アンケートの結果報告及び検討）
12月：駒ヶ林1丁目細街路整備完成（なぎさ小路、ふれあい小路）



構想の実現に向けて

駒ヶ林まちづくり協議会は、平成3年に設立されました。それ以来、まちの資源を整理しまとめた「駒っぶ」の作成、伝統的な食材である「いかなご」をテーマとしたウォークラリーの実施、40年以上放置されていた祭屋台の発掘と復元、住民の家庭に残された昔のまちや人の姿を集めた写真展の開催などを実施してきました。これは駒ヶ林のまちの長い歴史や伝統、魅力や誇りを再確認し、まとめ、それを若い人たちや他地区の方々、そして後世に伝える活動でした。

平成17年度からは、これらと同時に「まちづくり構想」の策定に向けた活動を開始しました。役員を中心に、まちを歩いて現状や課題を確認し、望ましい将来の姿を考え、言葉で整理し、アンケートを実施し、修正を加え、ようやくここに「駒ヶ林あかるく住みよいまちづくり構想」をまとめることができました。

駒ヶ林の住民の皆さん、並びにまちづくり協議会の役員の皆さんに、深く感謝を申し上げます。

駒ヶ林の人口は、昭和30年代に比べ約三分の一程度に激減しており、少子高齢化が進行しています。また震災後の空地や建替えの問題、密集した建物による防災性の不足、ゴミ出しマナーや違法駐車・迷惑駐輪など様々な課題も抱えています。しかし駒ヶ林は、昔から続く路地を介した「人情あふれるまち」であり、住民のまとまりは強く、お互い助け合いのできる関係が築かれています。この地域のつながりをもとに、できることから一つずつ、この構想の実現に向けて活動を続けて参ります。

今後も住民の皆さんのご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

駒ヶ林まちづくり協議会

会長 中本 正



駒ヶ林あかるく住みよいまちづくり構想

発 行：平成19年3月

編 集：駒ヶ林まちづくり協議会

長田区まちづくり推進課

編集協力：スタチオ・カタリスト

